

下痢症原因菌調査

【微生物科】

1 はじめに

当所では、人と環境からの下痢症原因菌調査として鳥取市市街地の河川水と下水及び東部、中部の医療機関2定点より採取した小児下痢症患者の便について、サルモネラ、ビブリオ、カンピロバクター、病原大腸菌の分離を行っている。今年度の結果について報告する。

2 まとめ

環境でのサルモネラの定点別月別分離状況を表1

に示し、血清型別、月別分離状況を表2に示す。丸山橋、下水ポンプ場からほとんど年中サルモネラが分離されている。

平成12年度はサルモネラが50株分離されたが、*S. Infantis*、*S. Enteritidis*、*S. Typhimurium*の順に多かった。その他ビブリオ19株、病原大腸菌30株(12血清型)を分離したが、いずれも毒素産生性はなかった。小児科定点から分離されたのは、*E. coli* 35株(8血清型)と*S. aureus* 11株であった。また *Hafnia alvei* を1株分離した。

表1. サルモネラの定点別月別分離株数 (00. 4~01. 3)

定 点	地 点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1. (千代川)	源太橋	1			1							1		3
3. (旧袋川)	吉方橋	2	1		1		1	1				1		7
4. (旧袋川)	丸山橋		1	2	1	2	3	1	2	3		1	2	18
6. (下水)	ポンプ場	2	1	2	1	1		5	2	1	1	2	2	20
7. (湖山川)	矢 矯						1			1				2
合 計		5	3	4	4	3	5	7	4	5	1	5	4	50

表2. サルモネラ月別分離状況 (00. 3~014)

		分 離 月												
血清型		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
04	S. Tyhimurium				1 (6)			1 (6)	2 (4, 6)					4
	S. Agona					1 (4)			1 (6)					2
	S. Schwarzengrund	1 (3)												1
	S. Derby	1 (6)												1
07	S. Infantis	1 (6)	1 (6)	2 (4, 6)		1 (4)							2 (4, 6)	7
	S. Thompson							1 (4)				1 (6)		2
	S. Oranienburg													
	S. Virchow		1 (4)							1 (4)				2
	UT				1 (3)		1 (4)	1 (3)						3
08	S. Nagoya													
	S. Cremieu													
	S. Blockley									1 (4)				1
	S. Newport			1 (6)	1 (1)		1 (4)							3
	S. Manhattan						1 (3)							1
	S. Albany							1 (6)						1
	UT			1 (4)										1
09	S. Enteritidis	1 (1)					1 (4)	1 (6)		1 (4)	1 (6)	1 (1)		6
	S. Itami													
	UT													
03, 10	S. Anatum													
	S. London	1 (3)				1 (6)		1 (6)						3
	S. Lexington											1 (3)		1
	UT											2 (4, 6)		2
01, 3, 19	S. Senftenberg		1 (3)											1
013	S. Havana									1 (6)				1
	UT				1 (4)			1 (6)						2
016	S. Hvittingfoss												2 (4, 6)	2
035	UT									1 (7)				1
OUT							1 (7)		1 (4)					2
合 計		5	3	4	4	3	5	7	4	5	1	5	4	50

() * 表1の定点を示す